

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 博士学位審査過程の客観性と透明性を向上させるため、関係内規 (要領) の整備を2011年度までに整備する。	→博士学位関係の内規整備。	B	A			
2. 教育成果の定期的検証を行うため、FDワークショップを毎年実施する。	→FDワークショップの開催、参加者数。成果公表。	B	B			
3. 進路調査を実施し、それに相応しい教育プログラムの深化を図る。	→進路調査の実施。卒業後の評価。	A	A			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 毎学期、授業終了時に、学生に対する授業アンケート調査を実施するとともに、毎年3月、卒業生に在学中の教育・研究並びに進路等に関するアンケート調査を行い、学習成果の調査をしている。
☆ 小項目 6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 学位の授与の基準については、甲号、乙号ともに客観的な授与基準と授与手続きを内規で定めている。
その他	

《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	2001年の開設以来、毎学期授業アンケートを実施し、卒業時にも包括的なアンケート調査をしている。それらの調査結果は、FD委員会で検討するとともに、卒業時のアンケートについては、毎年4月の研究科委員会で公表し、教員の授業改善に役立っている。
★小項目6.4.2	博士論文関係の内規の整備を行った。学会での発表、論文の本数などの客観的な基準に基づいて、学位授与を行っている。博士論文については外部審査員を活用し、口頭試問も学外者にも公開することによって、客観性のある審査を行っている。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	2005年度以降、7名の課程博士を出しているが、今後は毎年2名以上の課程博士を出すことができるように、さらに指導体制を強化していく。
★小項目6.4.2	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】**改善方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. **学内第三者評価**

<評価専門委員会の評価>

- 【学外委員】
○適切な対応がなされていると評価できます。
- 【学内委員】
○目標に対し着実に進展しています。
○学位授与の審査方法について、客観性・厳格性の確保という観点から踏み込んだ考察が必要と思われます。
○学習成果の調査を実施されていることは評価できます。ただ、6.4.1はどのような成果があがったのか、成果の内容について聞いています。そしてその結果はどのように測ったのかということです。従って、現状説明の再検討をお願いします。その際、効果が上がっている事項に記された内容も含めるなどしてください。
○設定された目標において、進捗評価が「A」のものがあります。新しい目標を設定するか、内容を変更するかお考えください。
- 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】
○小項目6.4.1
基盤評価：なし
達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」
○小項目6.4.2
基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」
達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

現状の説明 6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。

適切に行われている。修士学位は、所定の単位を取得し、修士論文あるいは課題研究論文を提出し、3名の論文審査委員による審査に合格した者に授与する。博士学位は、所定の科目を履修、博士候補者資格試験に合格、全国的学会誌に2編以上の掲載などの条件を満たした上で、博士論文を提出し、1名の外部審査委員を含む4名の論文審査委員による審査に合格したものに授与される。

★ 効果が上がっている事項 小項目6.4.1

2001年の開設以来、毎学期授業アンケートを実施し、次の学期の授業改善に役立てている。卒業時にも包括的なアンケート調査をしている。それらの調査結果は、FD委員会で検討するとともに、卒業時のアンケートについては、毎年4月の研究科委員会で公表し、次の年の教員の授業改善に役立てている。また、アンケート内容を、カリキュラム委員会でも検討し、カリキュラムの改編の参考にしている。